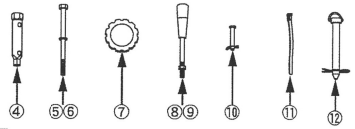
MM４０８組立要領書

1．標準付属品

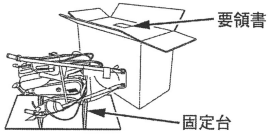
	品　名	個　数	備　考
1	組立要領書	1	本紙
2	取扱説明書	1	
3	保証書	1	
4	プラグボックス	1	
5	ハンドル締付ボルト	1	
6	平座金(M10)	1	
7	ハンドル締付ノブ	1	
8	主クラッチレバー	1	K仕様を除く
9	ナット(M8)	1	K仕様を除く
10	車軸ピン(スナップピン付)	2	
11	コードバンド	4	
12	ヒッチピン(スナップピン付)	1	ＳＲ仕様のみ
13	延長フェンダアッシ	1	SR・K仕様を除く
14	ユニバーサルヒッチアッシ	1	ＳＲ仕様を除く



2．組立要領

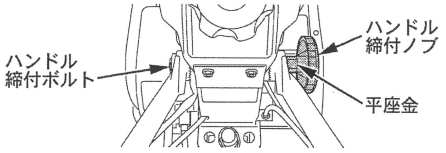
＊本機の組立は平たんな場所で行なって下さい。

(1) 段ボール箱の四隅を切り本機と固定台をいっしょに取出します。



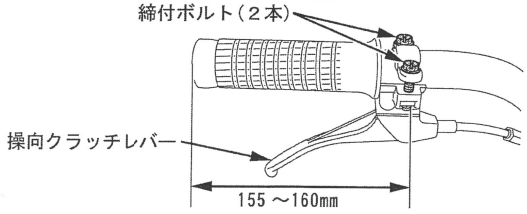
(2) 本機にハンドルを差込み，ハンドルを軽く上下させ，菊座が収まるところで，ハンドル締付ボルト，ハンドル締付ノブで確実に締付けます。

【締付トルク 10～15N・m(100～150kgf・cm)】

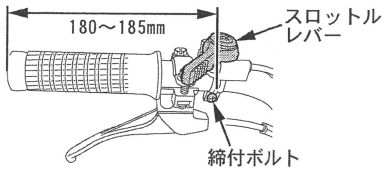


(3) ハンドルに付いている左右の操向クラッチレバー[S仕様]の締付ボルト(2本)を緩め，下図の位置に確実に締付けます。

【締付トルク 3～5N・m(30～50kgf・cm)】



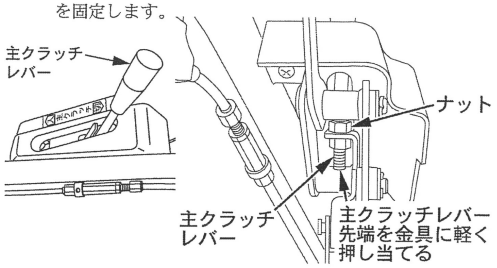
(4) 右ハンドルに付いているスロットルレバーの締付ボルトを緩め，下図の位置に確実に締付けます。



(5) 主クラッチレバーの組付

①主クラッチレバーは切の位置で，左ハンドルのレバー取付部の間にナットを入れ，金具に軽く押しあたるまでねじ込みます。

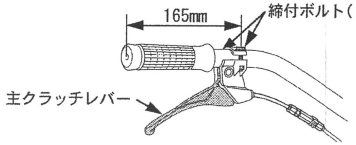
②ナットをスパナ(12)で締付け，確実に主クラッチレバーを固定します。



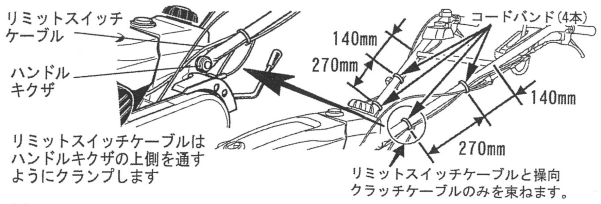
[K仕様]

左ハンドルに付いている主クラッチレバーの締付ボルト(2本)を緩め，下図の位置に確実に締付けます。

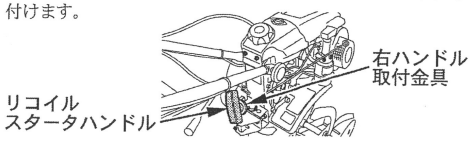
【締付トルク 3～5N・m(30～50kgf・cm)】



(6) コードバンドでケーブルとハンドルをクランプします。

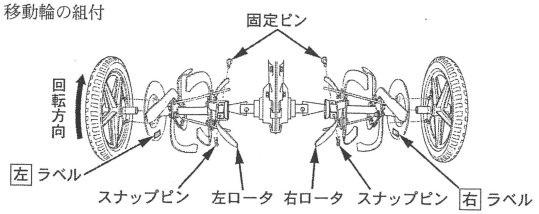


(7) リコイルスタータハンドルを下図の右ハンドル取付金具に組付けます。



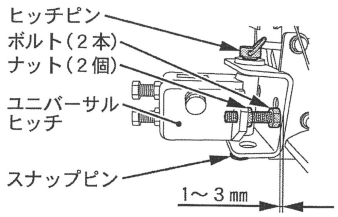
(8) ナタ爪ロータ・ユニバーサルヒッチ・抵抗棒の組付,移動輪の組付

①ロータ，移動輪の組付



②ユニバーサルヒッチの組付

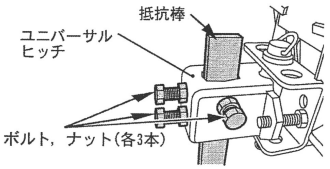
右図に示すように本機後方ヒッチにユニバーサルヒッチを組付け，ヒッチピンを差込みスナップピンで固定します。ボルトと本機ヒッチの隙間が左右とも1～3mmになるようボルトを調整します。ユニバーサルヒッチの左右の振りが同じか確認し，ナットを確実に締付けます。



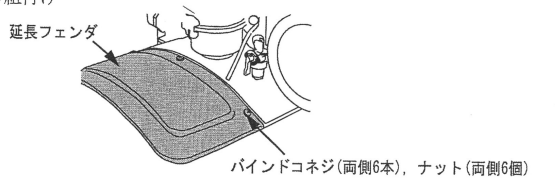
③抵抗棒の組付

ユニバーサルヒッチに抵抗棒を差込み，確実にボルトを締付け，ロックナットで固定します。

（作業に応じて抵抗棒の高さを調整します。）



(9) 延長フェンダの組付け



3．必要工具

300mmスケール，⊕ドライバー，スパナ(10)(12)(17)，トルクレンチ

4．組立後点検

	点　検　項　目	点検結果
組立	ハンドルは確実に締付けられ固定されていますか	
	主クラッチレバーは確実に締付けられ固定されていますか	
	操向クラッチレバーは左右とも確実に締付けられ固定されていますか	
	スロットルレバーは確実に締付けられ固定されていますか	
	ユニバーサルヒッチ・抵抗棒は確実に組付けられていますか	
	ロータ取付ピンは確実に組付けられていますか	
	ロータの左右は間違いないですか	
	リコイルスタータはハンドルの金具に取付けられていますか	
運転点検	主クラッチレバーで主クラッチの「入」「切」の操作が確実に行なえますか	
	操向クラッチレバーで操向クラッチの「入」「切」が左右とも確実に行なえますか	
	スロットルレバーでエンジンの回転速度を調節できますか	
	主クラッチレバーが「切」の時，リコイルスタータでエンジン始動できますか	
	主クラッチレバーが「入」の時はエンジンは始動しないこと	
	エンジンスイッチでエンジンの「運転」「停止」操作が確実に行なえますか	

品番1370-65135